本栖湖: 古の湖

本栖湖の湖底の最深部は 120m であり、これは他の富士五湖の中で最も深い西湖の最深部のほぼ 2 倍の深さ、そして残り 3 つの湖と比べれば 8 倍の深さです。西湖と同様、本栖湖の名称も古剱の海に関係している可能性があり、一部では本栖湖という名前が「元の剱 (せ)」という意味だと考えられています。本栖湖が比較的早い段階に剱の海から離れたことは明らかですが、西湖と精進湖の水位はまったく同じであり、地質学者はこれらの 3 つの湖は地下で繋がっていると考えています。

本栖湖を「住处」にする注目に値するものとして、遊覧船の「もぐらん」が挙げられます。その外観は潜水艦風で、1 階には水中を観察できるのぞき窓がありますが、この船は潜水しません。この船が文字通り「潜らない」を意味するためにその名前が「もぐらん」となっているのです。

国民に愛される風景

本栖湖は、富士五湖の中で最も人里離れたところに位置しているため、その湖岸は、安らぎと静けさを求めるハイキングやキャンプを楽しむ人々の間で人気です。東岸の店の中には、カヌー、ウィンドサーフィンボードや SUP 用具などのキャンプや水のスポーツ用品をレンタルしているところも数軒あります。本栖湖では動力船の乗り入れが禁止されており、自然のままの風や波の音を聞くことができます。

この湖からは、富士山を北東から眺めることができます。その景色は特徴的で、多くの場合人工建造物がまったく見えません。最もよく知られる景色のひとつは、2004 年のデザインの千円札に描かれており、また 1984 年のデザインの五千円札にも使われています。この図柄は一生を富士山の撮影に捧げた岡田紅陽 (1895-1972) の写真に基づいたものです。今日に至るまで、日本の通貨に描かれている自然の風景は富士山のみです。